

ふるさと

小川未明

青空文庫

北きたの故郷こきょうを出でるときに、二羽わの小鳥ことりは、どこへいつても、けつして、ふたりは、はなればなれにならず、たがいに助け合あおうと誓ちかいました。すみなれた林はやしや、山やまや、河かわや、野原のほらを見捨みすて、知らぬ他国たこくへ出でることは、これらの小鳥ことりにとつても、冒険ぼうけんにちがいなかつたからです。そして、ふたりは、春はるまだ早い、風かぜの寒さむい日ひに高たかい山やまを越こえました。

いつも、ほんのりとうす紅あかく、なつかしく見みえた、山やまのかなたの国くににきてみると、もはや、そこには、花はなが咲さいていました。吹ふく風かぜもあたたかく、いろいろの草くさは、すでに丘おかに、野原のほらに、緑みどり色いろに萌もえていました。

「こんなに、いい国くにのあることを、なんで、いままで知らなかつたのだろう。」と、ふたりは花はなの咲さきにおつている木きにとまつたときに、顔かおを見合みあつて語かたつたのです。

「なぜ、昔むかしから、あの山やまを越こすといけなといったのだろう。」と、一羽わの小鳥ことりが、ふるさとにいる時分じぶんに、年としとつた鳥とりたちの注ち意いういしたことに、不思議ふしぎを抱いだきました。

「それは、こういうわけなんだ、……もし、いいといったら、私わたしたちはまだ遠とおい旅たびがされないのに、早はやく出でかけるから、あの山やまのあなたは、怖おそろしいところだ。あちらへいくと、もう、二度どここへは、帰かえられないといったにちがいない……。」「と、ほかの一羽わの小鳥ことりは、いいました。

「ほんとうに、そうなのだ。いつも、みんなが、この国へきて、すめばいいのにな。」

ふたりは、年とつた鳥たちが、あのさびしい野原や、風の寒い林の中を、いちばんいいと思っっているのを笑いました。

それから、あちらの木かげ、こちらの林と、二羽の小鳥は、思い、思いに、飛びまわって、唄をうたっていました。こうするうちに、彼らはだんだんこの土地に慣れたのであります。

「もつと、あちらへいこうよ。」と、一羽が、いいました。

「あまり、人間のたくさんいるところへいくと、あぶなくないか？」

「人間の姿を見たら、すぐに逃げればいいのだ。」

ふたりは、こういましめあつて、里の方へ出かけてゆきました。田畑は、どこを見てもきれいに耕されていました。そして、うす紅や、黄色の花や、紅い花などが咲いて、また、北の自分たちが生まれた地方では見なかつたような、美しいちようが、ひらひらと誇らしげに花の上を飛んでいたのであります。

「あんな、美しいちようでさえ、平気に飛んでいるじゃないか。」と、一羽の鳥は、一本、野中に立っている木にとまったときに、友だちをかえりみて、いいました。

「きれいなばかりが、あぶないのでないだろう……。ちようは、唄をうたわない。けれど、私たちはさえずることまでできるから、あぶないと思うのだ。」と、一羽の小鳥は、考え顔をして、答え

たのでした。

「そんなら、ふたりは、だまつていることだ。」

「そうだ。だまつていよう。」

二羽わの小鳥こどりは、鳴なかないことに、相談そうだんしました。そして、町まちの近くちかまで飛とんできました。北きたのふるさとでは、見みられないものを見みたばかりでなく、そこでは、まだ、聞きいたことのない、いろいろのいい音ねを聞ききました。

「私わたしたちは、風かぜの音おとと、波なみの音おとと、他たの鳥とりたちの鳴なく声こえしか聞きかなかつたが、ここでは、なんとという、いい音ねいろ色が聞きこえてくることだろう……。」「と、一羽わの小鳥こどりは、くびをかしげながら、いいました。

「やはり、人間は、偉いな。」

「わたし私たちがばかりが、いい声を出すのでない。この世の中に、私たちがほどの、いいうたい手はないと、年よりは、よく私たちに聞かしたが、あんなに、いい音が、あちらから聞こえてくるでないか？」と、一羽の小鳥は、感心しました。

「あ、それでわかった。年よりたちが、山を越えて、遠くへいつてはならないといったのはそのためだ。だれでも、自分たちが、いちばん偉いと思っていれば、たとえ不自由をしても、のんきでいられるからだ。」

こんなことを話しているうちに、いつしか、黙っているという誓いを忘れて、ふたりは、人間がやっている音楽の音に、自

分ぶんたちも負まけない気きでうたいはじめたのでした。

すると、ふたりのほかに、どこからか、自分じぶんたちと同じおなような声こえで、うたつたものがあります。

「だれだろう?」

旅たびの空そらで、仲間なかまのうた声こえを聞きくと、二羽わの小鳥ことりは、じつとしていられなくなりました。そして、その声こえのする方ほうへ飛とんでゆきました。声こえは、ある家うちの軒のき下したからもれてきたのです。ふたりは、庭にわさききの木立こだちにとまって、その声こえのする方ほうをのぞくと、哀あわれな仲間な間は、狭せまいかごの中なかにいれられて、しきりと、外そとを見上みあげていました。

「人間にんげんに、捕とらえられたのだな。」

「かわいいそうにな。」

ふたりは、小さな声で話をしていたが、ついに、かごの中の鳥なかとりに向かつて、話しかけたのです。

「どうして、人間などに捕らえられたんですか？」

「みんなそう思うでしょう。あなたがただって、もうすこしここにいてごらんさい、いつか私のようになつてしまいます。私はもう、このかごの中に、二年もいます。しばらく仲間の声を聞かなかつたのに、今日めずらしくあなたがたの声を聞いて、自分も、つい大きな声を出して、お呼びもうしたのです。」と、かごの鳥は、答えました。

「しかし、人間は、あなたを大事にしているようじゃありません

んか。」

「それは、餌えさや、水みずには、気きをつけてくれます。ときどきは、青あおい菜ななどをいれてくれます。しかし、自分じぶんで、ほしいものを気きままに、探さがすという喜よろこびもなければ、また、自由じゆうというものもありません。あのようように、空そらを飛とんだ、私わたしの翼つばさは、もう飛とぶ用ようがなくなつてしまいました。」

「気きままに飛とんでいいる私わたしたちには、自由じゆうのありがたみが、ほんとうにわかりませんが、こちらは、いろいろの花はながあり、それに、暖あたたかかで、いいところではありませんか。」

「いいえ、あの風かぜの寒さむい、空そらの青あおい、北きたのふるさどが、いちばんいいところです。人にんげん間は、器き械がいを持もっています。それを使つかって、

飛とんでいる鳥とりをうつこともできれば、また、巧たくみな方法ほうほうで生いけど擒りにすることもできます。あなたがたも、はやく、見みつからないうちに、お帰かえりなさい。」と、かごの鳥とりは、いいました。

「どうかして、そのかごの中なかから、逃にげ出だすことはできませんか……。」と、ふたりは、哀あわれな鳥とりにささやいたのであります。

かごの鳥とりは、うらめしそうに、こちらをみ見ていたが、
「逃にげ出だしても、私わたしには、もはや、あの山やまを越こすだけの力ちからがありません。それより、あなたたちは、はやく、ふるさとへお帰かえりなさい。夏なつになると、この国くには、とても暑あついのです。」と、いいました。

二羽わの小鳥ことりは、なるほどと考かんがえました。そして、急きゆうに、ふるさ

とがなつかしまれたのであります。それから、まもなく、ふるさとを指して帰りました。ふたりは、きたときのように、途中幾たびも木にとまって休みました。

「あの国にすんだにしても、みんな生擒にされたり、殺されたりするものばかりでもないだろう。」と、ひとりがいいますと、「美しい花の咲くところや、にぎやかなところにばかり、私たちの幸福があると思つたのが、まちがっていたのだ。やはり、平和で、自由に暮らせるところが、いちばんいいのだ。」と、ひとりが答えました。

ふるさとに帰ると、すっかり春になつていて、清らかな、香りの高い、花が、南の国ほど、種類はたくさんなかつたけれど、

山^{やま}や、林^{はやし}に、咲^さいて、谷^{たに}川^{がわ}の水^{みず}が、朗^{ほが}らかにささやいていまし
た。年^{とし}とつた鳥^{とり}たちは、ふたりの帰^{かえ}つたのを喜^{よろこ}びました。そして、
ふたりは、昔^{むかし}の生^{せい}活^{かつ}に返^{かえ}つたが、ときどき南^{みなみ}の方^{ほう}の空^{そら}をながめ
て、あ^{そら}の空^{した}の下^{した}にいる不^ふ幸^{こう}な仲^{なか}間^まの身^みの上^{うえ}を考^{かん}えたのでした。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 6」講談社

1977（昭和52）年4月10日第1刷

底本の親本：「未明童話集 4」丸善

1930（昭和5）年7月

初出：「はるかと 47巻2号」小学校

1929（昭和4）年5月

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：栗田美恵子

2019年10月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ふるさと

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>